

いけんひろば
「こどもデータ連携」について考えてみよう！
報告資料

2024年10月30日（水）・11月6日（水）・12月6日（金）
出向く型

2024年度「こども若者★いけんぷらす」事業

目次



- **開催概要**

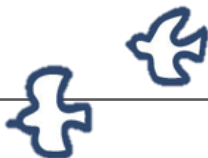

- **参加者の意見**

1. 「こどもデータ連携」に対する感想
2. 困ったときの相談について
3. 周囲にしてほしい接し方

- **参加者アンケート**



開催概要

| | | |
|-------------------|--|---|
| <p>テーマ</p> | <p>「こどもデータ連携」について考えてみよう！</p> |  |
| <p>担当省庁</p> | <p>こども家庭庁</p> | |
| <p>テーマ説明</p> | <p>困難な状況にあるこどもは、こども自身が声をあげられなかったり、こどもが自分自身の困難を把握できていなかったりなど、その実態が見えにくく、実際の支援に繋げるまでに様々な課題があります。そこで「こどもデータ連携」事業では、地方公共団体の様々な部局がもつ、こどもに関するデータを分野横断で集めて人の目で確認することで（＝データ連携）、潜在的に支援が必要なこどもを早期に把握し、プッシュ型・アウトリーチ型支援に繋げるための取組を行っております。そこで、この取組を進めていくため、どうすればよりよい取組になるか、どのような点に気を付けるべきかについて当事者になるこども・若者の皆さんの意見を聴かせてください。</p> | |
| <p>開催日時</p> | <p>①令和6年10月30日（水）13：00～14：30 ②令和6年11月6日（水）15：00～16：30 ③令和6年12月6日（金）18：00～20：00</p> | |
| <p>開催場所</p> | <p>①こども家庭庁 ②大学施設 ③社会教育施設</p> | |
| <p>参加人数／グループ数</p> | <p>①11名／3グループ ②5名／1グループ ③3名／1グループ</p> |  |
| <p>参加対象者</p> | <p>①社会福祉学を専攻している大学生世代 ②教育福祉学を専攻している大学生世代 ③高校生世代</p> | |

1.「こどもデータ連携」に対する感想

Q.「こどもデータ連携」の取組について、率直にどんな感想を持ちましたか？（1/3）

支援の効果について

- そもそも児童虐待や困っているこどもや家庭がなくなるのが理想であることを踏まえると、**プッシュ型・アウトリーチ型の予防的な支援を実施できるのは良いことだ**と思う。
- 支援が必要な人でも、自分からはなかなか声をあげられない人、どこに相談していいかわからない人にとっては、**支援提供側からアプローチしてくれると支援に繋がりがやすく、気持ち的にも負担にならない。**一方、**言い方は様々だ**と思うが、**全然知らない人から「あなたには支援が必要です」と言われると嫌に思う人も**いるかもしれない。**赤の他人からアプローチされると、少し壁を作ってしまう可能性もある。**
- 支援が必要であることは身近な人からだと逆に言いづらいため、データ連携で訪問してくれるような人（赤の他人のような人）の方が言いやすいかもしれない。
- 知られたくないからこそ伝えていなかった情報を勝手に知られるのは、支援につなげるためとはいえ微妙な気持ちになる。**とはいえ、個人情報保護に関する不安を補って余りあるメリットがある良い取組だ**と思う。ヤングケアラーなど、忙しさゆえに自分から相談に行くのが難しい人たちのために**アウトリーチ型の支援があると良い**と思う。
- 虐待などの困難を抱えた子を見つけるのは、**事後的になってしまふことが多い。**こちらから潜在的な虐待を発見できるようになれば、**虐待件数が減る**と思う。ただ、運用までには**まだ時間がかかるように思った。**
- スムーズに支援ができるのであれば、自ら声をあげられず制度の狭間にいる人へ支援が届けられるので良いと思う。
- 様々な事情を抱えた人たちに対する支援もあると良いと思う。



支援する対象への配慮について

- 難しい取組だと思った。福祉の実習に行った人の話を聞くと、虐待通告があった家庭に訪問しても、親に「虐待していない」と主張され支援を拒否されることがあるようだった。また、ヤングケアラーの場合、当事者であるこども自身が「困っていない」と言うこともある。周囲の人間からすれば、家事などに追われて遊んだり勉強したりする時間が確保できていないのは学生本来の姿ではないように見えたとしても、当事者が「家族の支援をして何が悪いのか」と思っている限り、支援するのは難しいのではないかと感じた。
- **どのように親とこどもの権利を両立していくのか考えていかなければならない**と思う。
- 一番尊重すべきなのは支援を受ける人や当事者の方たちであり、その人たちの気持ちに最大限寄り添わないといけない。その人たちから「支援はいらない」と言われたら、見守りの体制は継続しつつも強引に支援を実施すべきではないかもしれない。



Q. 「こどもデータ連携」の取組について、率直にどんな感想を持ちましたか？（2/3）

データが連携される方法・範囲について

- 行政は縦割りで、制度の狭間にいる人を救えないとよく言われるが、データを活用することでより救うことができるようになる。一方で、自分の知らないところでどのようにデータを使用されているのかは不安である。
- 福祉に関して専門的な知識がない人間が、福祉に関する情報を保有することを不安に感じる。実際、教職課程では福祉分野についてあまり学習しないため、学校で福祉的なデータを取り扱う場合は、データを取り扱える範囲を福祉に関して専門性が高い人間に限定してほしい。
- 高校3年生の頃、スクールカウンセラーにスクールソーシャルワーカーの話聞くために学校の先生につないでもらったが、スクールカウンセラーに行っていることが先生の間で共有されていた。守秘義務が守られていないことに違和感を覚えた。少なくとも、先生同士で共有されていることを相談者自身に知られてはいけないと思う。
- 他の関係機関に情報共有する際に本人同意を得るのが気になる。また、情報が共有される範囲が明確になっていると良いと思う。
- 情報共有の際、虐待などの緊急性が高い場合は本人の同意は不要、それ以外の場合は本人の同意が必要という整理にできると良いかもしれない。
- 不登校になっている人は、他人を信じることができなくなっていることが多いので、本人の同意があったほうが良い。
- 虐待やヤングケアラーなど、本人が望んでそうなっているわけではない問題については、本人の同意取得を必須にしないほうが良いかもしれない。さらに、貧困の場合は、当事者が「知られたくない」という意識を持っている可能性があるため、本人の同意取得を必須にしないほうが良いかもしれない。
- 自分がいじめを経験したときは、学校外の人だったからこそ相談ができた。情報を共有する範囲は事前に本人に同意してもらったほうが良いと思う。仮に同意を取らない場合でも、情報を共有する範囲は事前に教えて欲しい。



データとの向き合い方について



- データにとらわれて数値には表れないリスクを見逃してしまうおそれがあると思う。
- 単にデータとして確認できるだけでなく、今後、支援の必要性を判定するための明確な基準を決定する必要があると思う。
- データが多すぎると、それを整理して適切な支援につなげられるかどうかがワーカー次第になってしまう点が難しいと考えている。
- 学校でアンケートを実施する場合、同じ人の回答でも読み手によって感じることは異なるだろう。担任の先生だけが「この人は大丈夫」と判断して支援を行わないとなると、判断材料が担任の先生の主観だけになってしまう。担任の先生関係なく、対象者が住む地域の人にまで話を聞いていくことで、本当に支援が不要なのかが見えてくると思う。



Q. 「こどもデータ連携」の取組について、率直にどんな感想を持ちましたか？（3/3）

把握すべき困りごとについて

- 警察が保有しているデータも連携の対象になるのか。虐待などを把握したときに、親の犯罪歴やこどもの補導歴が把握できれば、より解像度が高まると思った。
- こどもの声を拾い上げることで、虐待の早期発見につながれば良いと思う。
- こども自身がSOSを発信するのは難しいだろうと感じる。生まれた家庭環境に差があるように思うので、やはり保護者についての情報があると良いだろうと考える。
- こども自身が声をあげられない理由や背景を追求したほうが良い。
- 気付いてほしい時に気付いてもらえないこどもたちが多い。
- 国がどの程度の困りごとまで支援するべきなのか難しい。誰しもしんどいことを抱えて生きている。

幼少期に声を上げることができたか

- 家庭に関する問題の場合、それが当たり前とっていたためそもそも気が付かない。自分の家庭がどれくらい大変なのかが分からない。
- 小・中学生時代を振り返ると、とても狭い社会で生活していたと感じる。学校で家庭のことを話すと終わってしまうような気がしたため、自分は声をあげられていなかった。
- 家がしんどいことを学校の友達が知らないからこそ生きていけるとい側面がある。学校での自分を守りたいからあえて伝えていなかった。

業務の負担について

- データ連携によって職員の業務への負担が軽くなると、より効率的に働けるようになると思う。
- 「支援をしないといけない」という情報がピックアップされれば、その対象者の支援に優先して取り組むことができるため、問題解決に繋がって仕事が減るのではないかと考える。
- 実習先の社会福祉協議会でトラブルが起きたとき、職員の方が5か所くらいに電話をかけて情報収集していたが、担当者が常駐ではないため、半日以上経過することも多かった。分かりやすいデータとして共有されていたほうが、早く対応できるので良いと思う。



その他

- こどもと関わる人が必要なタイミングでそのこどもの情報を知ることができることが重要だと思う。一つの大きなデータベースに名前を入れて検索すると、教育や医療、福祉などの分野で行政と関わった履歴が網羅的に確認できる状態となることがこどもデータ連携の究極の理想形だと思う。



2. 困ったときの相談について

Q.実際に困ったときに、誰かに相談したいと思いますか？ 相談したいときは、誰（どこ）に声をかけますか？ 選択肢として誰（どこ）が浮かびますか？ 相談したくないと思うのは、どんなときですか？（1/3）

相談できる相手（場所）

学校の先生

- 学童以外の先生に直接相談することはなかなかなかった。
- **実際に助けを求める場合は、保健室の先生に相談する。**
- 助けを求める先は親だが、言える悩みと言えない悩みがある。親に言えない悩みは保健室の先生に話す、**以前保健室の先生に他の先生の愚痴を言ったら他の先生にまで伝わってしまったことがあった。**その時はたまたま伝わっても良い内容ではあったが、人によっては情報が洩れるのが嫌だと思われるかもしれない。その意味で、連携には難しさがあるなと思う。



家族

- 自分は家族に相談すると思う。もし家族が自分の拠り所にならない場合は、友達や学校の先生に助けを求めるかもしれない。信頼関係が強い人から順番（家族、友達、学校の先生）に助けを求めたいと思う。

習い事の先生

- **塾の先生が優しくだったので、塾が安心できる場所だった。**
- 習い事の先生がおばちゃんとかだったら相談しやすいかもしれない。
- 私も学校と家以外だと習い事が思い浮かぶが、習い事の先生に相談はしないかもしれない。

友達

- 悩みを打ち明けるという意味では友達に話すと思う。
- 友達には恋愛相談をするが、家の困っていることについて相談することはなかった。



第3の居場所

- **家にも学校にもつながっていないサードプレイスだと安心できる。**
- こどものときは家か学校しか居場所がなくて息苦しかった。
- **よく通っている場所だったら相談しやすいが、窓口で相談するためだけにその場所に行こうとは思わない気がする。**
- 「ここでなら何をしても良い」と思える場所が安心できる場所になる。

インターネット・SNS

- **自分ならインターネットで一度調べてみる。**
- SNSだと、助けを求めるというよりただ吐き出したいという気持ちがありそう。
- **SNSでの相談窓口なども増えてきたが、顔を見て話せることが大事だと思う。また、悩みごとを初めて話すときはみじめな気持ちになるので、電話相談のように毎回話す相手が変わるのはしんどい。**
- **相談内容にもよるが、顔を合わせないからこそ話せることもあった。**



2. 困ったときの相談について

Q.実際に困ったときに、誰かに相談したいと思いますか？ 相談したいときは、誰（どこ）に声をかけますか？ 選択肢として誰（どこ）が浮かびますか？ 相談したくないと思うのは、どんなときですか？（2/3）

相談できる相手（場所）

信頼できる人

- 信頼関係があり、「この人なら助けてくれそう」と思える人、学校の先生かバイト先の大人に助けを求めると思う。自分が高校を辞めるときは、**身近な塾の先生に相談した**。家族は自分の意見に反対するのが目に見えていたので、相談しづらかった。
- **以前、スクールカウンセラーに相談したとき、自分に確認することなく勝手に担任の先生へ情報共有されたことがあったので、専門職の人に対して苦手意識がある。専門職だったら話せるというよりも、自分が信頼を置ける人であれば話すことができるという感覚。**

信頼関係を生むために必要なこと

- 物理的な距離と心理的な距離は必ずしも一致しないと思う。例えば、半日くらい一緒に過ごしている学校の担任の先生に対して信頼感を持ってないこともあれば、普段の関わりは多くないが自分によくしてくれる他のクラスの先生に信頼感を持つ場合もある。
- 尊敬する気持ちを持つことができれば、信頼感が生まれると思う。
- 自分を大切に思ってくれていることを実感した時に信頼関係が生まれると思う。自分のことをよく見て、良いところを伝えてくれると信頼するようになる。
- 話を聞いて受け止めてもらえるのは信頼関係を生むために重要な要素だと思う。
- 自分がやってほしいことをしてくれたり、言わないでほしいことを言わないでいてくれたりすることも信頼関係を作るうえで重要だと思う。

同じ境遇の人

- **自分と同じ困難な状況になった人に会いたい。**
- 似たような境遇の子からアドバイスしてもらえるほうが心理的に相談しやすかった。

その他

- 学校の中に助けを求められる窓口があったら相談しやすい。
- 先生や大人に言えないことも、ぬいぐるみなどには言えるかもしれない。**中に人間はいるけど、見た目としてはぬいぐるみやバーチャルYouTuberなどであれば話しやすい人もいるかも。**
- 誰か1人に話を聞いてもらいたい場合もあれば、色んな人に話を聞いてもらいたい場合もある。



2. 困ったときの相談について

Q.実際に困ったときに、誰かに相談したいと思いますか？ 相談したいときは、誰（どこ）に声をかけますか？ 選択肢として誰（どこ）が浮かびますか？ 相談したくないと思うのは、どんなときですか？（3/3）

相談できない相手（場所）



配慮してくれない人

- 自分が話したいと思っているタイミングでずっと話してくる相手は話しづらいと感じる。逆に、自分があまり話したくないと思っている人にとっては、相手がたくさん話してくれたほうがありがたいと思う。
- 一方的に相手から意見を突き付けられたときは不快を感じる。こちらの立場を考えてくれない人は苦手を感じる。

勝手に行動する人

- 自分が困りごとを打ち明けることで、行動を起こして現状を変えてしまいそうな人には相談しづらい。その点でいえば、赤の他人に相談するほうがまだ気楽である。以前、重要なことを人に相談したときに、自分の同意がないまま勝手に行動されて、自身の周囲の状況が大きく変わったことがある。結果的に今の自分につながっているのでも今は感謝しているが、当時は納得していなかった。



忙しくしている人

- 学校の先生は、忙しくて時間を取ってくれなさそうなため、壁があると感じる。信頼関係のある相手だとしても、忙しそうにしていたら遠慮して他に頼れそうな人に相談すると思う。
- 話を聞いてくれる人と、実際に支援をしてくれる人は別がよい。例えば、学校の先生の場合は忙しくさせてしまうと気を使ってしまう。



相談できないとき

- 自分の場合、しんどいと思った時に相談する気力がわかない。また、みんなが忙しいかもとなってしまう。

相談できない内容

- 基本的に、自分の心理状態に関わりそうなことは相談したくない。相談することになった場合でも、なるべく学校や家族に連絡されない場所が良い。

Q. 自分から助けを求められない、求めない場合に、周囲からどのように接してほしいと感じますか？（1/2）

気にかける

- 学校の先生に「最近元気？」と気にかけてもらえるだけでも安心感を得られる。何度かためらっても、いつか言いたいと思えるかもしれない。ただし、嫌いな先生だったら嫌だとも思う。
- 助けを求められない／求めないときは、周りのほうから察して自分にコンタクトを取ってほしい。例えば、一緒に歩きながら自然に「最近嫌なことあった？」と聞いてくれると嬉しい。
- 助けを求められないながらも心のどこかで気づいてほしいという思いもある。自分の知らないところで情報が共有されていることにそこまで抵抗感はないが、信頼関係が構築できている先生から声をかけてもらえるほうが良いかもしれない。



そっとしておく

- 助けを求めないときは、そっとしておいてほしいが、見守ってくれていて、いざ自分が助けを求めたときに応じてもらえるような相手が良い。
- 嫌だったことは、解決して欲しかったわけではないのに勝手に解決に向けて行動されたこと。

介入する

- 助けを求められないときは多少強引にでも助けてほしい。自分から助けを求めないときにはそっとしておいてほしいが、助けを求めたときにすぐに応じてくれる環境があれば安心する。

受け止める

- 変に分かったふりをしたりアドバイスしたりはせずに、ただ話を聞いてくれるだけで十分。
- 嬉しかったのは、相談する時に自分が話せるタイミングになるまで待ってくれること。
- 頑張っていることを褒めてほしい・受け止めてほしいという思いと、どうにもならないから助けてほしいという思いは異なるニーズなので、アウトリーチ型支援もそれぞれの役割を担う人がいてほしい。
- 嬉しかったのは、別室登校にてスクールカウンセラーと話したとき、変に重く受け止めることなく面白い話などをしてくれたこと。「解決して欲しいわけではなくただ相談したいだけ」という気持ちに寄り添ってくれたのが嬉しかった。相談内容に対してしっかりと受け答えをしてくれつつ、丁度よいところで距離感を保ってくれたのがありがたかった。



普段どおりに接する

- こどもの気持ちはよく変わるので、普段通りに接してくれつつ、いざ声をあげたらいつでも歓迎的な雰囲気であってほしい。「もし困っていたら助けてあげるよ」と言ってくるのも煩わしい。助けを求めたときに、自分の想像の100倍くらい施してくれる人だと嬉しい。
- かしこまった環境だとお互いに緊張してしまうかもしれないので、何かをしながらだとより話しやすいと思う。

Q. 自分から助けを求められない、求めない場合に、周囲からどのように接してほしいと感じますか？（2/2）

相談しやすい環境を整える

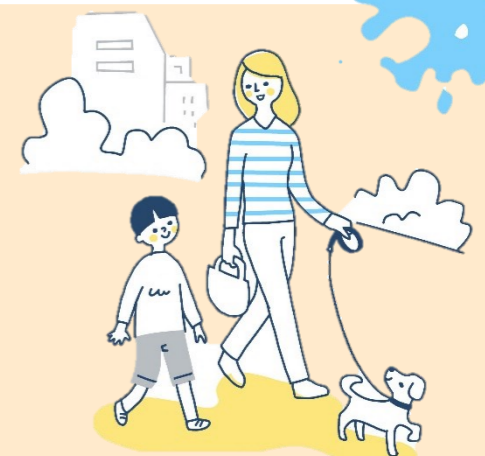
- 誰にも助けを求められなくなった場合に、家以外にも自分の居場所があるといいなと思った。
- 誰でも来ていい場所にすれば、貧困の人もそうでない人も気軽に来ることができるようになる。実際に、ヤングケアラーの子が来てくれた。後々自分が抱えている事情を話してくれるような環境にまで持っていけたのがよかった。聞かれるのが嫌な人はいると思うし、自分も同じ立場だったら聞かれたくない。紛れられるような環境がいいなと思う。
- 自分の家庭が大変だから特別に支援されているとこどもに思ってもらいたくない。こども食堂のような、誰でも歓迎しているような雰囲気が良い。
- 先生のように、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの顔もみんなに知ってもらえれば、こどもたちは相談しやすくなると思う。
- 自分は、相談相手が自分の気持ちに引っ張られて暗い気持ちにならないかを重要視している。気持ちがゆらがない、差別的な発言をしないなど、専門的な知識を有しているスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーが学校に駐在してほしい。その人たちと信頼関係を構築できていれば相談しやすい。
- 悩みを相談したいと思ったときにスクールソーシャルワーカーが学校におらず、その時に相談できないと「もういいや」と思ってしまふ。

助けを求められることを自覚する

- いじめの場合、まずこども自身がいじめられていることに気付くことが大事だと思う。困りごとが具体的な出来事レベルで書かれていたほうが相談しやすい。
- 誰でも歓迎するスタンスも大事だが、対象が広すぎるとかえって自分が対象だと思うことができなくなるかもしれない。「誰でも来てOK」と言われるのと「あなたも来てOK」と言われるのでは受ける印象が大きく異なる。そのため、自分が対象であることが明確にわかるような窓口があったほうが良い。

その他

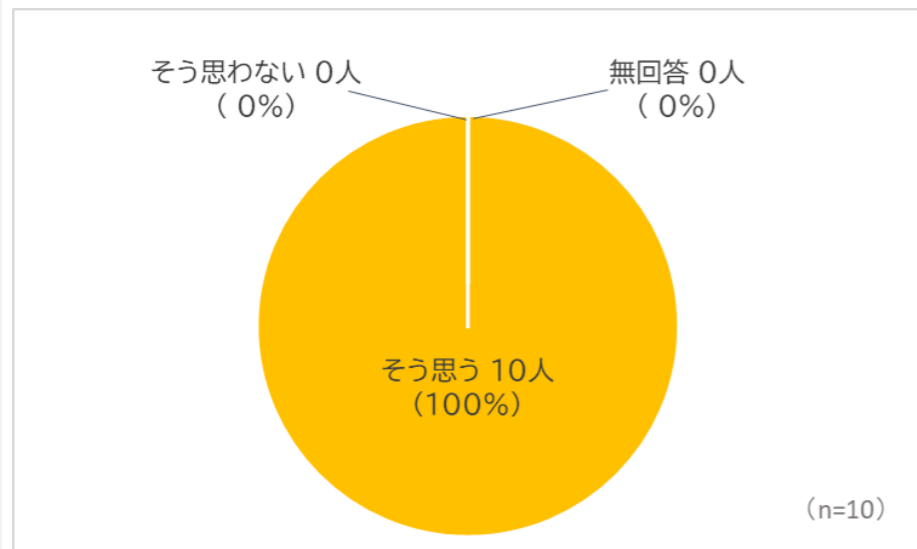
- 自分が助けをもらうことで、ほかの誰かが傷ついたり助けを求めなければならない状況になりそうになったりするときは、助けを求めることを控えると思う。
- 「相談したい」という気持ちには波がある。



参加者アンケート（10/30開催）

（一部を抜粋して掲載）

「いけんひろば」に参加してよかったですか？



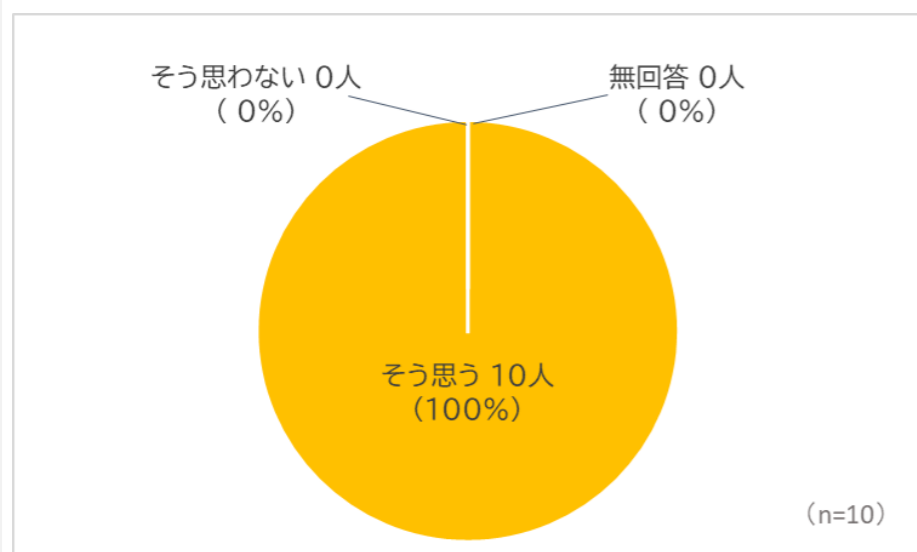
「そう思う」の理由（自由回答）

• 普段のゼミの話し合いとは異なる雰囲気や、ファシリテーターの方が意見を引き出してくださりいつもよりも視野を広く考えられたように感じる。こどもデータ連携についてわかりやすく教えていただき勉強になった。

• 自分の意見が少しでもいま困っているこどもたちのためになるなら参加して良かったと思う。

• 卒論に関わるテーマであったのでほかの方の意見を聞いて参考になりました。

今日の「いけんひろば」では、自分が話したいと思ったことを言えましたか？



話したいと思ったことを言うのがむずかしかった理由や、言い足りなかったこと（自由回答）



• 新しい取り組みを言葉にして発言することがむずかしかった。

そのほか、今日の「いけんひろば」について、気づいたことや感想を教えてください。

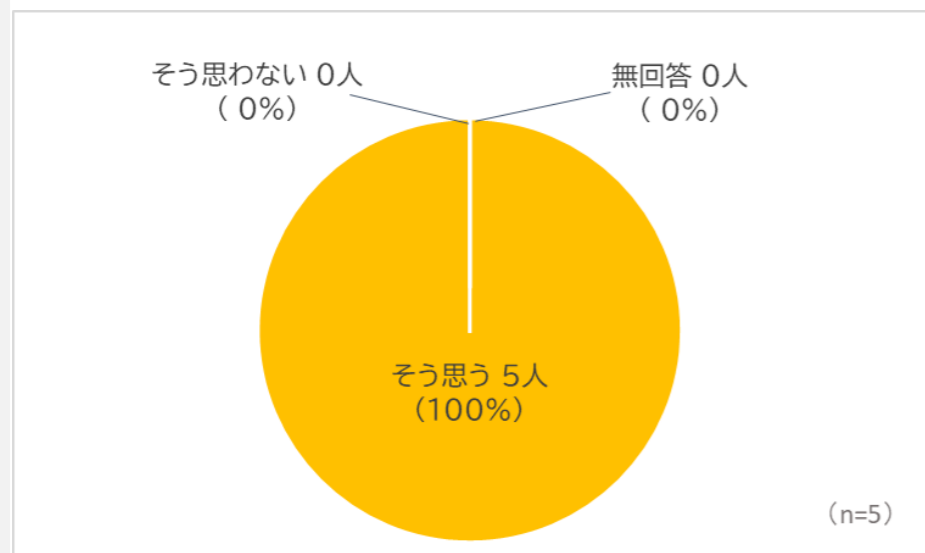
• 初めて会う大人の方がいて、緊張したが柔らかい雰囲気を作ってくださり話しやすかった。こどもについて考え、学びを深めることができた。

• 国への施策に直接関われる場面に立ち会った事がなかったので、とても良い経験でした。

参加者アンケート（11/6開催）

（一部を抜粋して掲載）

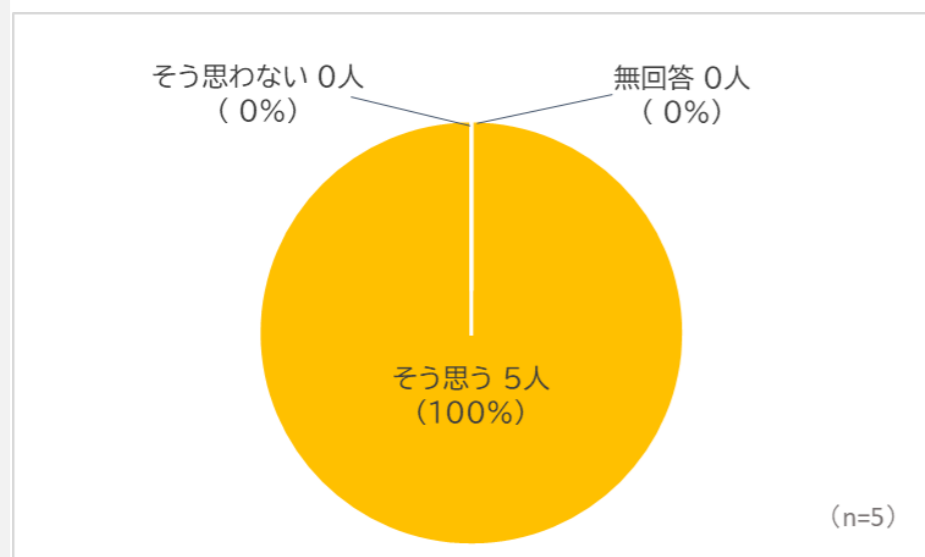
「いけんひろば」に参加してよかったと思いますか？



「そう思う」の理由（自由回答）

- 自分自身の子ども時代を振り返ることができてとても良い学びになりました。また、他の人の話を聞くことも中々ないので、自分と異なる多様なバックグラウンドを知ることで自分の視野が広がりました。
- 子どもの支援と地域福祉に関心がありましたので、本プロジェクトを知り、こども家庭庁を少し身近に感じる事が出来ました
- こどもデータ連携について知ることができただけでなく、自分がこどもだった時の視点を思い出して考えることができたため。

今日の「いけんひろば」では、自分が話したいと思ったことを言えましたか？



話したいと思ったことを言うのがむずかしかった理由や、言い足りなかったこと（自由回答）

回答なし



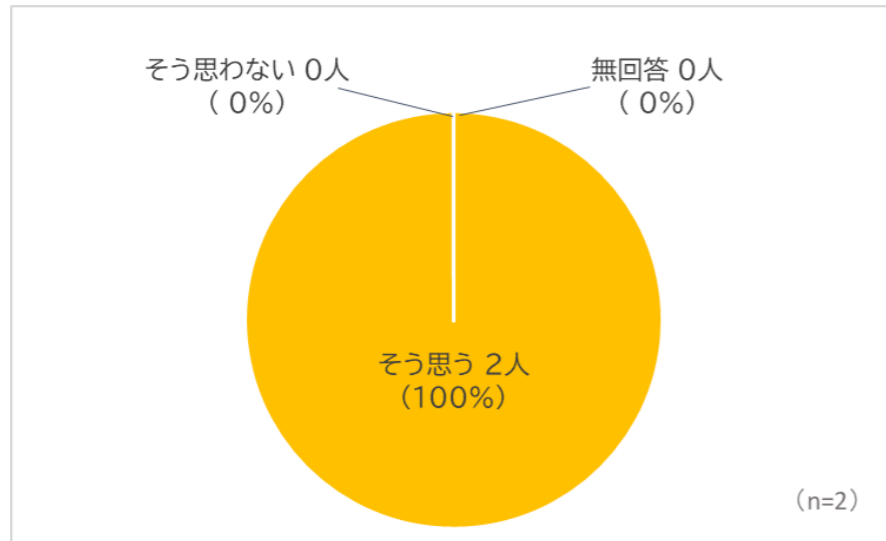
そのほか、今日の「いけんひろば」について、気づいたことや感想を教えてください。

- 自身の経験を振り返り、客観的に見れるきっかけになりました。この気づきを子どもと関わる仕事に活かしたいと思います。
- 若者当事者として意見することは滅多にないので、とても学びになりましたし、こういう個人個人の子ども若者の声が、国レベルの事業につながっていくのはとても大切なことだと思いました。私にとっては、自分の過去を思い出し向き合うことのできたきっかけとなりました。

参加者アンケート（12/6開催）

（一部を抜粋して掲載）

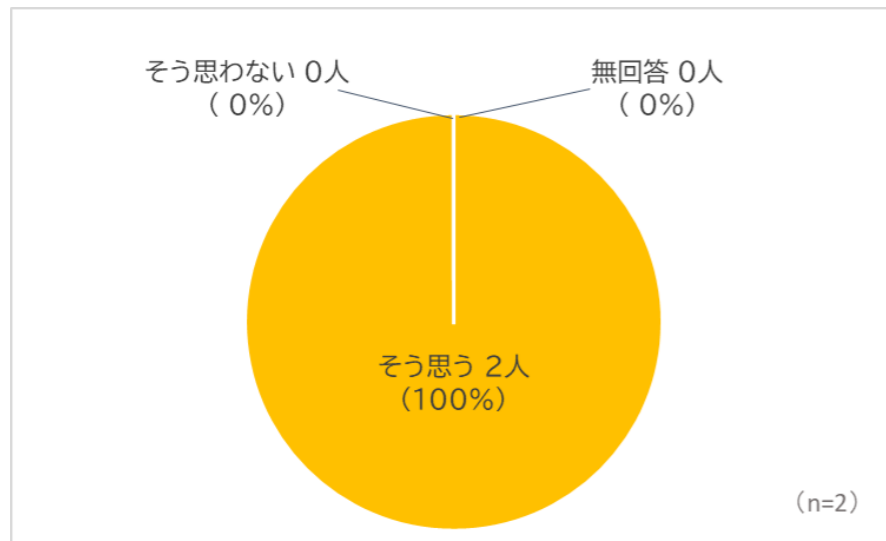
「いけんひろば」に参加してよかったと思いますか？



「そう思う」の理由（自由回答）

- 行政の人が政策について、しっかり説明してくれたため、今回のテーマに対して理解が深まりました。

今日の「いけんひろば」では、自分が話したいと思ったことを言えましたか？

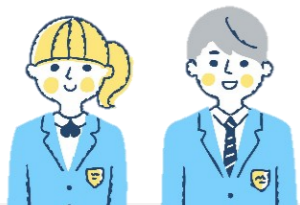


話したいと思ったことを言うのがむずかしかった理由や、言い足りなかったこと（自由回答）

回答なし



そのほか、今日の「いけんひろば」について、気づいたことや感想を教えてください。



- 上記にもあるように、テーマ自体の理解も深まりましたが、質問をされる中で自分自身の悩みや考えを言語化することができてよかったと思います。また、こういうふう to 子どもの意見を取り入れようと話を聞きに来てくれるのはとても嬉しいと思います。